

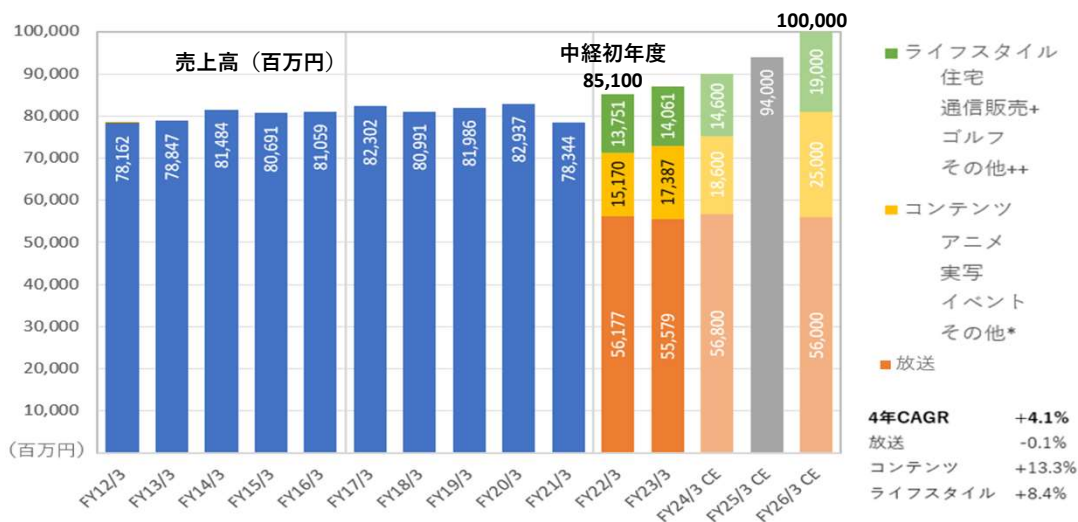
市場はテレビコンテンツの価値を再評価しはじめた

朝日放送グループHDの株価は、計画未達と保守的な業績予想で出遅れ

サマリー

- 過去5年間に渡って大手地上波テレビ局の株価は、TOPIXを大きくアンダーパフォームしてきた。電通が公表しているデータによれば、2019年にインターネット広告費の総額がテレビメディアの広告費の総額を上回り、加えて、総務省の調査でも2020年から消費者のインターネットの利用時間がテレビの視聴時間を上回っている。しかしながら、こうした傾向は、今年に入り変わり始めている。これは、放送局が持つ知的財産であるライブラリーコンテンツをマネタイズする大きな可能性がある事を、株式市場が評価し始めているためだ。
- 2月、USEN-NEXT HD傘下のU-NEXTと定額制動画配信サービス「Paravi」を運営する株式会社プレミアム・プラットフォーム・ジャパン (PPJ) は経営統合することを発表した。PPJの大株主であるTBS HDとテレビ東京HDは株式交換によりUSEN-NEXT HDの株式を受領したが、両社の株価は動意づいており、その他主要な放送局の株価も注目されている。メディアリサーチ会社のGEM Partnersによれば、日本のビデオオンデマンド市場が2022年度の5,307億円から、2027年度の7,487億円に増加すると予測している (CAGR+7.1% 9頁参照)。動画コンテンツを収益化する方法にはTVer、YouTube、DVD販売などがあるが、スポット・タイム (ネットワーク・ローカル) の広告収入に依存する事のない収益源の多様化が模索されている。
- 朝日放送グループHDは、「中期経営戦略 2021-2025 NEW HOPE」において、ビジネスモデルを進化させる具体的なステップを提示した。総合コンテンツグループとしてさらなる進化を遂げるべく、コンテンツ制作のバリューチェーンを強化するため、コンテンツ制作を推進する多様な人材を育成・獲得するとしている。また、テレビ通販に加え、Eコマース事業を拡充し、BtoCビジネスの拡大を図る。同社は23/3期通期決算と同時に、中期経営戦略のローリングプランとなる「2021-2025 NEW HOPE 2nd STAGE」を開示した。

朝日放送グループHD「2021-2025 NEW HOPE 2nd STAGE」の目標



出所：同社中期経営戦略資料よりSIR作成

注：+TV通信販売・eコマース含む、++新規事業等、*受託製作等、

4Q Follow-up



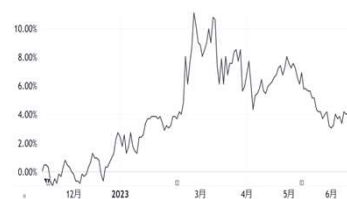
注目点

関西圏をカバーする有力放送局であり、総合コンテンツ事業グループを目指す。データの活用やDXを通じてEコマース事業の拡大も狙う。

主要指標

株価 (6/19)	652
年初来高値 (22/3/10)	695
年初来安値 (23/1/6)	630
10年間高値 (15/4/16)	1,276
10年間安値 (16/6/24)	581
発行済株式数(百万株)	41.833
時価総額 (十億円)	27.276
自己資本比率(3/31)	56.6%
24.03 PER (会予)	16.0x
24.03 EV/EBITDA (会予)	2.7x
23.03 PBR(実)	0.39x
22.03 ROE (実)	2.0%
24.03 DY (会予)	2.15%

6ヶ月株価チャート



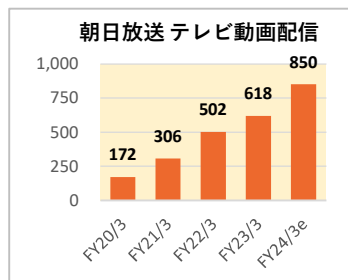
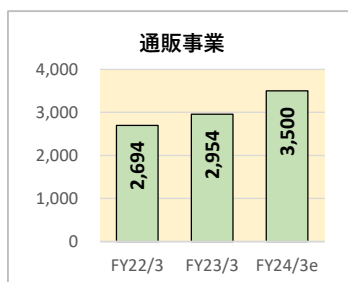
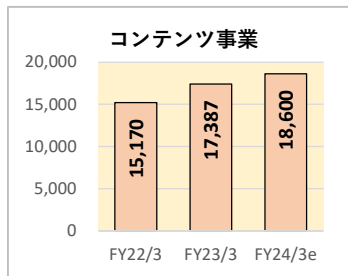
Source: Trading View

クリス・シュライバー CFA
アナリスト

research@sessapartners.co.jp



本レポートは当該企業からの委託を受けてSESSAパートナーズが作成しました。詳しくは巻末のディスクレマーをご覧ください。

重点事業の売上高推移
(百万円)

出所：同社決算説明資料よりSIR作成

重点事業のコンテンツ売上高は前年同期比で14.6%増、 会社計画に対して8%の上振れ

中期経営戦略 2021-2025 NEW HOPE 2nd STAGEローリングプラン 2023を公表

FY2023/3期決算サマリー

- 朝日放送グループHDは、5/12（金）15:00に通期連結決算を発表し、5/22（月）15:00にオンラインによる決算説明会を開催した。主要数字は、売上高が前期比2.3%増、営業費用が同4.4%増加し営業利益は同38.3%の減少となった。経常利益は同44.5%減、親会社株主に帰属する利益が同49.3%減である。営業利益率は4.9%→3.0%と低下。2Q決算発表時に修正した通期会社予想に対して、営業利益、親会社株主に帰属する利益はそれぞれ10.6%、38.5%の未達となった。
- 重点事業であるコンテンツ事業の売上高が前年同期比14.6%増（修正後会社計画を8%上回る）と予想以上に好調であったものの、営業利益は通販やその他新規事業の立ち遅れ（それぞれ28%、33.8%の不足）と、コンテンツ開発における先行投資増による営業費用の増加などにより前期比38.3%減となった。経常利益は同44.5%減（21.7%未達）となり、連結損益計算書では、固定資産除却損や貸倒引当金繰入などにより営業外費用が446百万円増加したことが示されている。親会社株主に帰属する利益は、減損および会場閉鎖損失引当金の計上などの特別損失が442百万円増加したことにより、前期比-49.3%（38.5%未達）となった。

朝日放送グループHD FY23/3期 連結決算サマリー

百万円, %	FY22/3	FY23/3	FY23/3	FY23/3	前年比	修正会予	FY24/3	前年比
[日本基準]	実績	期初会予	修正会予 (11月)	実績	% (11月)差異	会予	会予	%
売上高	85,100	91,000	87,000	87,028	2.3	0	90,000	3.4
放送・コンテンツ	71,348	75,200	71,800	72,967	2.3	1.6	75,400	3.3
・放送	56,130	56,400	55,400	55,516	-1.1	0.2	56,700	2.1
・コンテンツ	15,170	18,500	16,100	17,387	14.6	8.0	18,600	7.0
・その他	47	300	300	63	34.0	-79.0	100	58.7
ライフスタイル	13,751	15,800	15,200	14,061	2.3	-7.5	14,600	3.8
・ハウジング	9,825	9,800	9,600	9,770	-0.6	1.8	9,700	-0.7
・ゴルフ	854	900	900	939	10	4.3	950	1.2
・通販	2,694	4,500	4,100	2,954	9.7	-28	3,500	18.5
・その他	377	600	600	397	5.3	-33.8	450	13.4
営業費用	80,897	87,000	84,100	84,434	4.4	0.4	87,500	3.6
対売上高比率	95.1%	95.6%	96.7%	97.0%	—	—	97.2%	—
・売上原価	55,581	—	—	58,067	4.5	—	—	—
・販売管理費	25,315	—	—	26,366	4.2	—	—	—
営業利益	4,203	4,000	2,900	2,594	-38.3	-10.6	2,500	-3.6
営業利益率	4.9%	4.4%	3.3%	3.0%	—	—	2.8%	—
放送・コンテンツ	3,654	3,300	2,400	2,602	-28.8	8.4	2,300	-11.6
ライフスタイル	874	1,000	800	433	-50.5	-45.9	600	38.6
調整額	-325	-300	-300	-441	—	—	-400	—
経常利益	4,792	4,500	3,400	2,661	-44.5	-21.7	2,700	1.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,671	2,900	2,200	1,354	-49.3	-38.5	1,700	25.6
EPS (¥)	64.97	69.49	52.66	32.42	—	—	40.74	—
DPS (¥)	24.00	20.00	16.00	16.00	—	—	14.00	—
配当性向	36.9%	28.8%	30.4%	49.4%	—	—	34.4%	—

出所：同社決算短信、決算説明資料、及びIR関連資料よりSIR作成

FY24/3期の会社予想は、売上高が前年比3.4%増、営業利益は同3.6%減、親会社株主に帰属する利益は同25.6%増である。中期経営戦略 NEW HOPE 2nd STAGEで注目すべき点は、コンテンツ事業の計画を確かなものにするため、プロデューサーやクリエイターを抱えるグループ会社間で人材の交流・連携を強化させることである。

連結損益計算書

(単位：百万円)

	FY22/3期 (2021年4月1日～ 2022年3月31日)	FY23/3期 (2022年4月1日～ 2023年3月31日)
売上高	85,100	87,028
売上原価	55,581	58,067
売上総利益	29,518	28,961
販売費及び一般管理費	25,315	26,366
営業利益	4,203	2,594
営業外収益		
受取利息及び配当金	187	217
補助金収入	497	342
その他	112	160
営業外収益合計	797	720
営業外費用		
支払利息	30	32
持分法による投資損失	-	32
固定資産処分損	23	117
貸倒引当金繰入額	-	202
投資事業組合運用損	67	220
匿名組合投資損失	25	-
支払手数料	26	-
その他	33	48
営業外費用合計	207	653
経常利益	4,792	2,661
特別利益		
固定資産売却益	-	210
投資有価証券売却益	267	-
特別利益合計	267	210
特別損失		
投資有価証券評価損	121	249
減損損失	369	491
会場閉鎖損失	-	127
特別退職金	-	65
特別損失合計	491	933
税金等調整前当期純利益	4,568	1,938
法人税、住民税及び事業税	1,809	787
法人税等調整額	274	138
法人税等合計	2,083	926
当期純利益	2,485	1,012
非支配株主に帰属する当期純損失	-185	-341
親会社株主に帰属する当期純利益	2,671	1,354

出所：同社23/3期 連結決算報告書(会計年度: 至 2023/3/31、決算短信)



FY2024/3期
修正目標

中期経営戦略 2021-2023 NEW HOPE、及びローリングプランの推移

①朝日放送グループ 中期経営戦略 2021-2025 「NEW HOPE」 2021 (初年度)						
百万円、%	FY21/3	FY22/3	FY23/3	FY24/3	...	FY26/3
[J-GAAP]	実績	期初 会予	MTP 会予	MTP 会予		MTP 会予
グループ売上高	78,344	82,000	88,000	92,000	NA	100,000
YoY	-5.5	4.7	7.3	4.5		
・放送・コンテンツ	61,850	67,800	72,000	75,000	NA	81,000
・ライフスタイル	16,494	14,200	16,000	17,000	NA	19,000
グループ営業利益	2,694	2,300	3,000	4,500	NA	5,700
YoY	-20.5	-14.6	30.4	50		-
営業利益率(%)	3.4%	2.8%	3.4%	4.9%		5.7%
・放送・コンテンツ	2,020	1,700	1,800	3,200	NA	NA
・ライフスタイル	988	900	1,500	1,600	NA	NA
②朝日放送グループ 中期経営戦略 2021-2025 「NEW HOPE」 ローリングプラン2022						
百万円、%	FY21/3	FY22/3	FY23/3	FY24/3	FY25/3	FY26/3
[J-GAAP]	実績	実績	期初 会予	MTP 会予	MTP 会予	MTP 会予
グループ売上高	78,344	85,100	91,000	94,000	97,000	100,000
YoY	-5.5	8.6	6.9	3.3	3.2	3.1
・放送・コンテンツ	61,850	71,348	75,200	77,000	79,300	81,000
・ライフスタイル	16,494	13,751	15,800	17,000	17,700	19,000
グループ営業利益	2,694	4,203	4,000	4,500	5,000	5,700
YoY	-20.5	56	-4.8	12.5	11.1	14.0
営業利益率(%)	3.4%	4.9%	4.4%	4.8%	5.2%	5.7%
・放送・コンテンツ	2,020	3,654	3,300	3,200	3,600	3,800
・ライフスタイル	988	874	1,000	1,600	1,700	2,200
③朝日放送グループ 中期経営戦略 2021-2025 「NEW HOPE」 ローリングプラン2023						
百万円、%	FY21/3	FY22/3	FY23/3	FY24/3	FY25/3	FY26/3
[J-GAAP]	実績	実績	実績	期初 会予	MTP 会予	MTP 会予
グループ売上高	78,344	85,100	87,028	90,000	94,000	100,000
YoY	-5.5	8.6	2.3	3.4	4.4	6.4
・放送・コンテンツ	61,850	71,348	72,967	75,400	77,700	81,000
・ライフスタイル	16,494	13,751	14,061	14,600	16,300	19,000
グループ営業利益	2,694	4,203	2,594	2,500	3,900	5,700
YoY	-20.5	56	-38.3	-3.6	56	46.2
営業利益率(%)	3.4%	4.9%	3.0%	2.8%	4.1%	5.7%
・放送・コンテンツ	2,020	3,654	2,602	2,300	3,300	4,500
・ライフスタイル	988	874	433	600	1,050	1,650

出所：同社中期経営戦略 2021-2025 「NEW HOPE」 ローリングプラン2023よりSIR作成。

NEW HOPE 2nd STAGE の数値目標と主要な取り組み

- 26/3期の最終年度売上高および利益目標に変更はないが、構成される営業利益の内訳は変わった（上表の赤い点線枠でハイライト）。SIRは、住宅展示場の成長はハードルが高く、また、通販における提携先の拡大はより長めの時間軸が必要と思われる、この修正は妥当であると考えられる。
- 中期計画の達成に向けて、重点的に注力している事業においては、オーガニック成長と、M&Aや事業提携などによる非連続な成長の両方が想定されている。NEW HOPE 2nd STAGEにおける成長投資と財政戦略については、次頁にまとめたので参照いただきたい。放送・コンテンツ事業について、朝日放送テレビの今期の重要な取り組みは、新たに日曜日の夜10時に、ドラマのプライム枠を立ち上げたことが挙げられる（詳細は6頁参照）。しかしながら、ドラマ作品がヒットするかどうかを予測することは難しいため、良質で知名度が高いアニメの展開にも積極的に取り組み、ゲームやライブイベントなどを通して、新たなビジネスチャンスを複合的に創出していきたいと考えている。アニメ業界では制作過程の一部が中国企業に委託されており、前期には不動産不況から派生した中国経済の落ち込みと、新型コロナウイルスに係る行動制限などから制作活動が影響を受けたが、足元では解消された模様である。



「NEW HOPE」はコンテンツとライフスタイルを中期経営戦略のドライバーと位置づける

経営陣が取り組んでいる課題は多岐にわたるが、SIRでは以下の3つを最も重要なポイントとして見ている。

1) 全ジャンルのコンテンツ強化に向けてあらゆる手段を講じ、サステナブルな高利益率事業への移行を図る。

2) デジタルマーケティングやSNSの活用などを通じて、通販、Eコマースの拡大を推進し、朝日放送グループ全体でのシナジー発揮やクロスセリングの機会に繋げる。

3) ESG・SDGsに注力することで、優良企業としての朝日放送グループのブランドの向上を図る。

NEW HOPE 2nd STAGE 成長投資戦略

- M&Aや コーポレート・ベンチャー・キャピタル(ABCドリームベンチャーズ)などを活用し、コンテンツ/ライフスタイル各事業の戦略に沿って、コンテンツ/ライフスタイル領域の機能・資源を獲得する
- DXによるビジネス創造を目指し、デジタル領域への投資を強化する
- 従業員一人ひとりの知識・スキルを最大化し、社内外の才能が行き交うグループ(人材交差点)を目指し、人的資本投資を強化する
- 社会貢献に資す事業創出のための投資を行う。

NEW HOPE 2nd STAGE 財務戦略

- 投資にかかる資本コストを意識した経営資源配分を行うことで事業ポートフォリオを最適化する。
- 中期経営戦略実現のための継続的な成長投資を行うことで、総合コンテンツ事業グループとしての企業価値向上を目指す。
- 財務の健全性と財務レバレッジの適切なバランスを維持するために、最適な資金調達手段及び資金効率の最大化を目指す。

FY24/3期 設備投資額と減価償却費 期初会社予想

単位：十億円	FY22/3		FY23/3		FY24/3 CE	
	連結	ABCテレビ	連結	ABCテレビ	連結	ABCテレビ
設備投資額	¥8.4	¥6.5	¥7.9	¥0.8	¥4.8	¥2.9
減価償却費	¥3.2	¥1.5	¥3.7	¥1.7	¥3.9	¥1.9

出所：同社決算説明資料よりSIR作成



日曜22時のプライムタイムに新設ドラマ枠

朝日放送テレビは日曜よる10時台のプライムタイムにドラマ枠を新設。テレビ朝日系全国ネットで放送『日曜の夜ぐらいいは…』

朝日放送テレビは、ドラマラインナップの充実と拡大を図る重点施策の一環として、2023年4月より日曜夜10時台のプライムタイムに全国放送の1時間枠を確保した。同社によれば、今年度中に現タイトルを含めて4作品を検討しており、今後もプライムタイムの全国ネット枠は継続していく方針だという。

2023年4月30日（日）午後10時スタートのドラマ第1弾は、3人の女性の友情を描いた物語『日曜の夜ぐらいいは…』、サブタイトル「恋愛なんか奇跡じゃない。友情こそが奇跡だ。」である。物語の背景には、社会からの孤立や介護といった現代日本の社会課題も描かれている。オリジナル脚本作品。主演は女優の清野菜名さん、岸井ゆきのさん、生見愛瑠さん、脚本は岡田恵和氏が担当。

あらすじ：古ぼけた団地、郊外の借家、街中を空しく走るタクシー。時代に取り残され、活気を失い、どことなくもの寂しさが漂うどこにでもある光景に、特筆すべき要素はない。だが、それぞれの窓の奥に目を凝らせば、そこにはさまざまな事情を抱えた暮らしがあった。足の不自由な母との二人暮らしを支えるため、休みなくバイトを続ける娘、そして家族から縁を切られながらも、退屈な毎日に楽しみを求めてタクシー運転手を続ける女性、両親との縁が浅く借家暮らしを送りながら祖母と工場勤務を続ける孫娘…。離れた場所に住み、お互いの存在も知らない3人は、あるラジオ番組をきっかけに運命的な出会いを果たす。そして、お互いに戸惑いながらも心を通わせ始めた彼女たちにある“奇跡”が起き…漫然とした暮らしの中で行き詰まっていた3人の人生が、静かに動き出す…！



パフォーマンス&バリュエーション:
SESSA Smart Charts

✓ FY24/3期の初期予想に基づくP/EとEV/EBITDAは、右グラフのように過去の平均値とほぼ一致した水準にある。決算後のフォローアップ取材を経て、SIRでは今期予想は、FY23/3期が下振れしたことから保守的な予想に留まったと考えている。

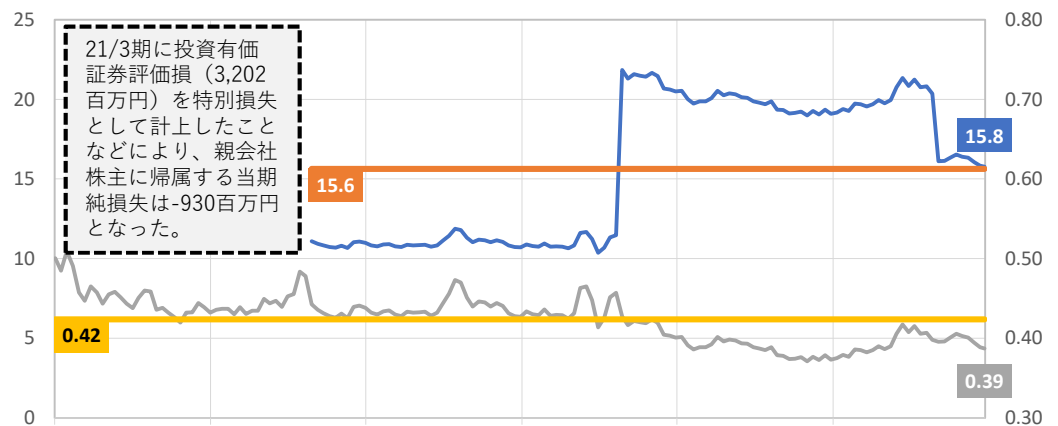
✓ 次頁の相対株価チャートから分かるように、朝日放送グループHDは、主要テレビ局の中で3年前の株価と比べて唯一下落したテレビ局であるが、これは今年5月以降の株価が特にアンダーパフォームしていることから今期の保守的な会社業績予想の反映と考えられる。

✓ しかし、コンテンツビジネスの比重が高まることによる今後の利益率の改善や、テレビ通販のEコマースへの展開などを考慮すると、現在のバリュエーションは中期的なビジネスチャンスはまだ織り込んでいないと考えられる。

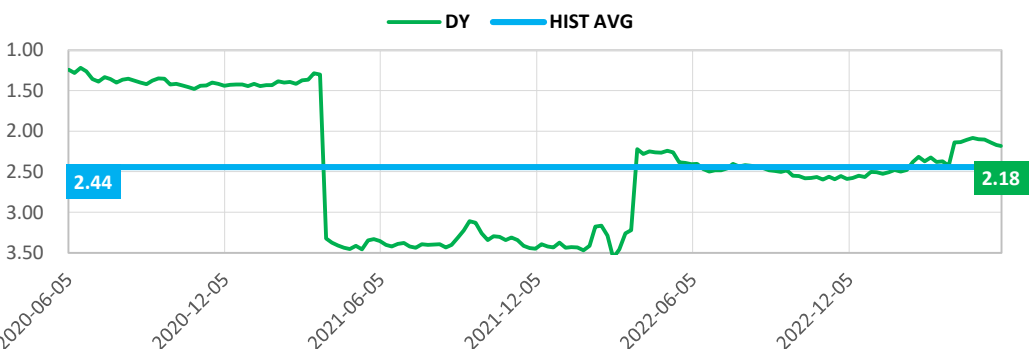
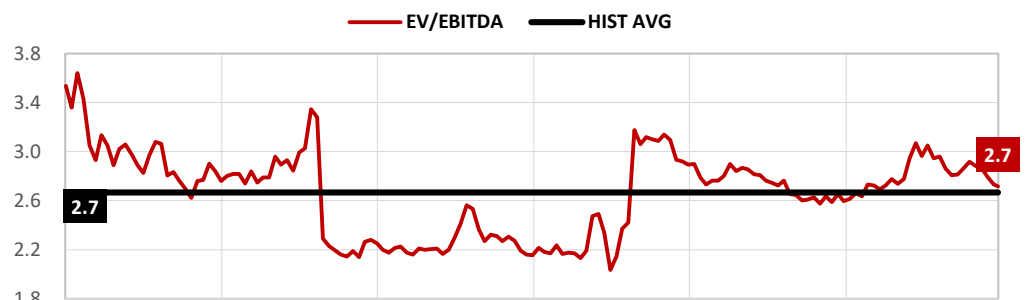


Analyst's View

SESSAスマートチャート: 3年週足ローソク足 (移動平均線: 13W, 26W, 52W) / 出来高



21/3期に投資有価証券評価損 (3,202百万円) を特別損失として計上したことなどにより、親会社株主に帰属する当期純損失は-930百万円となった。

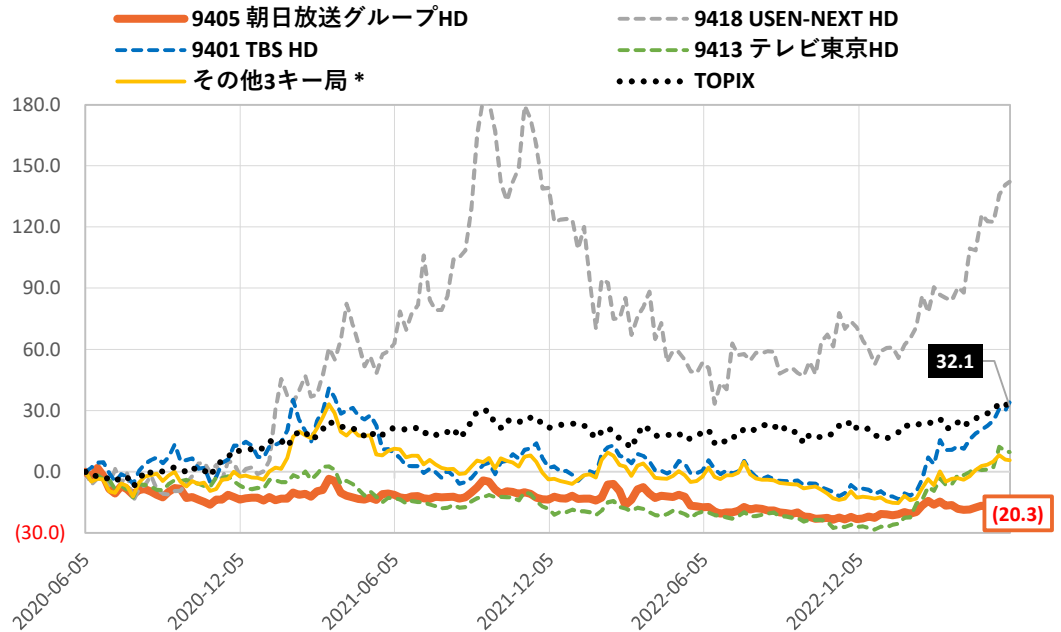


出所: SPEEDAの株価データよりSIR作成。計算数値は会社予想に基づく

✓ 2月17日、USEN-NEXT HOLDINGS (9418)は、定額制動画配信サービス「Paravi」(2018年4月開始、TBS HD、日本経済新聞社、テレビ東京HD、WOWOW、電通グループ、博報堂DYメディアパートナーズが共同配信)を運営する株式会社プレミアム・プラットフォーム・ジャパン(PPJ)を簡易株式交換により吸収合併する計画を発表した。

✓ PPJの株主であったTBS HD(9401)とテレビ東京HD(9413)は、合併後のコンテンツ調達に関する契約を締結したため、両社の株価は好感された。**注目すべき点は、株式市場がテレビ各局の持つコンテンツの価値を織り込み始めたことである。**

3年間の週間相対パフォーマンス：2023年はコンテンツ関連がアウトパフォーマンス



*その他3キー局は日本テレビHD(9404)、フジ・メディアHD(4676)、テレビ朝日HD(9409)の時価総額加重平均値

株式市場は、テレビコンテンツの価値を織り込み始めている

2023/5/31 終値	時価総額(百万円)	PER(倍)	PBR(倍)	配当利回り (%)	2023 YTD (%)
9401 TBS HD	389,168	15.3	0.48	1.94	48.0
9404 日本テレビHD	333,734	8.7	0.39	2.92	21.4
4676 フジ・メディア・HD	313,820	11.5	0.36	3.58	24.8
9409 テレビ朝日HD	164,312	10.3	0.39	3.30	13.0
9413 テレビ東京HD	75,926	10.6	0.80	2.91	49.9
9405 朝日放送グループHD	26,856	15.8	0.39	2.18	0.5
9418 USEN-NEXT HD	195,604	21.3	5.16	0.61	52.2

出所：SPEEDAデータよりSIR作成。TOPIXの2023 YTDは +12.6%

朝日放送テレビ FY24/3期 収入見通し：テレビ動画配信 +37.5%，コンテンツ収入+18.0%

(単位：百万円)

		23/3 (実績)	24/3	前期比	増減率
放送収入		49,534	50,500	965	1.9%
主な内訳	スポット	30,094	30,100	5	0.0%
	ネットワーク	12,294	12,740	445	3.6%
	ローカル	5,805	5,850	44	0.8%
	テレビ動画配信 (主にTVer配信)	618	850	231	37.5%
コンテンツ収入		6,694	7,900	1,205	18.0%

出所：同社FY23/3期4Q決算発表資料より抜粋

放送収入

放送を通じて得られる広告収入が中心（「放送」の見逃し配信であるTVer収入を含む）

コンテンツ収入

映像・イベントなどの「コンテンツ・IP」を多角的に制作・展開することで得られる収入（系列局への番組販売、パナソニック・パナソニック・パナソニックから派生するコンテンツ展開を含む）

朝日放送テレビの高いコンテンツ制作能力を示唆する視聴率実績

下記は関西エリアの地上波テレビ視聴率のランキングである。毎年4月が各局番組の改編時期であることから、おおよそ2022年4月から2023年3月までの実績を掲載した。朝日放送テレビは世帯視聴率において19時～23時のプライム時間帯でトップを獲得している。

また、ビデオリサーチ社が公表した2022年全国推計視聴者人数によれば、バラエティ部門で朝日放送テレビの「M-1グランプリ2022」が平均視聴人数1,908.2万人でトップ、「芸能人格付けチェック! 2022 お正月スペシャル」が同1,831.7万人の2位(他社と同数)となり、全国区での上位2つのポジションを独占した。

22年4月-23年3月*関西地区視聴率：個人全体

	全日 (6-24時)	ゴールデン (19-22時)	プライム (19-23時)	プライム2 (23-25時)
1	YTV 3.7%	YTV 6.2%	YTV 6.0%	YTV 3.2%
2	ABC 3.6%	ABC 5.8%	ABC 5.9%	ABC 2.8%
3	KTV 3.2%	KTV 5.0%	KTV 5.0%	KTV 2.4%
4	MBS 3.0%	MBS・NHK 4.8%	MBS 4.7%	MBS 2.3%
5	NHK 2.6%	*** ***	NHK 4.2%	NHK 1.1%

22年4月-23年3月*関西地区視聴率：世帯

	全日 (6-24時)	ゴールデン (19-22時)	プライム (19-23時)	プライム2 (23-25時)
1	YTV 6.6%	ABC・YTV 9.7%	ABC 10.0%	YTV 5.8%
2	ABC 6.4%	*** ***	YTV 9.4%	ABC 5.2%
3	KTV 5.6%	NHK 8.4%	KTV 8.0%	KTV・MBS 4.3%
4	MBS 5.3%	KTV 7.9%	MBS 7.7%	*** ***
5	NHK 4.8%	MBS 7.7%	NHK 7.4%	NHK 2.2%

■ABC (テレビ朝日系) ■MBS (TBS系) ■KTV (フジテレビ系) ■YTV (日本テレビ系) ■NHK ※カッコ内は前年同期比

*2022年4月4日～2023年4月2日

出所：同社決算説明資料より抜粋

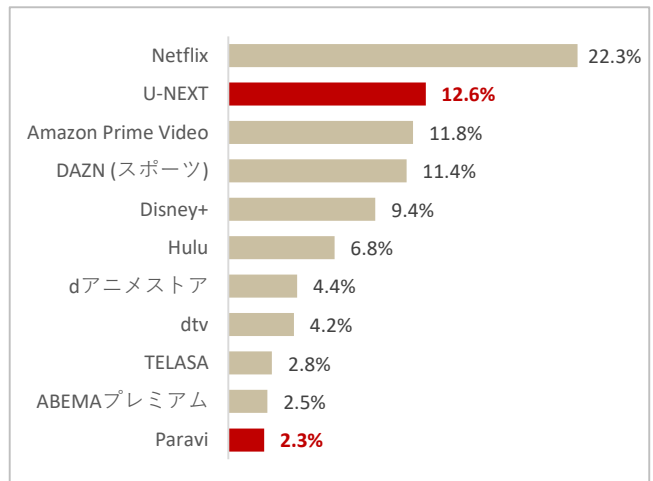
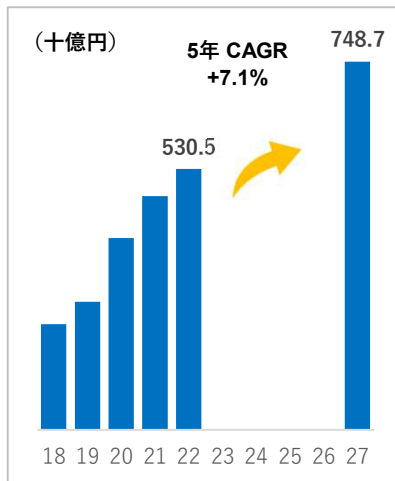
朝日放送テレビの高い人気を誇る「キラコンテンツ」番組

- ♣ 「相席食堂」：芸能人が日本各地でロケを行い、食堂などで相席をして人々とふれあい、その様子をスタジオにいる人気漫才コンビがツッコミながら見守るバラエティ番組。インターネット動画配信でも非常に高い人気を誇る。
- ♣ 「探偵! ナイトスクープ」：毎週金曜日深夜に放送している視聴者参加型のバラエティ番組。芸能人が「探偵」を務める探偵事務所へ届く視聴者からの依頼を受けて「探偵」が調査を行い、スタジオの「局長」に報告する。2023年に35周年を迎えた関西発の人気長寿番組で、インターネット動画配信、DVDなども人気。
- ♣ 「ポツンと一軒家」：衛星画像のみを手がかりに、日本各地の人里離れた場所に存在する一軒家を、地元の情報に基づいて探し出し、そこで暮らしている人々とふれあい、そこで暮らす理由や思いを取材するヒューマンバラエティ番組。幅広い世代の人気を獲得し非常に高い視聴率を誇る。
- ♣ 「M-1 グランプリ」：歴史・実績・視聴率において、他のお笑いコンテストの追随を許さない年末恒例の漫才日本一決定戦。朝日放送テレビが、熱戦の模様を全国に生中継している。YouTubeなどのSNS展開、放送後のDVDなども人気が高い。
- ♣ 「芸能人格付けチェック!」：1月1日に放送される恒例の人気番組。8年連続、正月三が日で放送される主要な番組の中で、世帯視聴率トップを維持している。日本を代表する一流芸能人たちが、味覚・視覚・聴覚を駆使して食材や楽器などの一流品を見極めるというバラエティ番組。正解数に応じて豪華ゲストを番組内で「格付け」する。
- ♣ 「おはよう朝日です」：ニュース、天気をはじめ、関西エリアの最新トレンド、暮らしに役立つ情報を生放送で届ける朝の情報番組。2023年4月に44周年を迎えた“関西の朝の顔”ともいえる人気長寿番組。

U-NEXT、Paravi統合後のSVOD市場シェアは14.9%

SVOD市場はU-NEXTとParaviの事業統合により改めて注目を集めたが、メディアコンサルティング会社、GEM Partners によれば同市場は今後5年間で年率7.1%の成長を遂げ、市場規模は2027年にはおよそ7,500億円に達すると予想している。朝日放送テレビのコンテンツはNetflixを始め複数のSVODに提供されており市場の拡大が期待される。

日本の動画配信市場*の5年間成長予測、及び国内SVODマーケットシェア



* 「定額制動画配信(SVOD)」「レンタル型動画配信(TVOD)」「動画配信販売(EST)」を合わせた動画配信市場全体の規模

注：TVerは無料プラットフォームのためSVODには含まれない。

出所：GEM Partners「動画配信（VOD）市場5年間予測（2023-2027年）レポート」、株式会社 USEN-NEXT HOLDINGSの説明資料よりSIR作成。

「総合コンテンツ事業グループ」を目指す朝日放送グループHD

朝日放送グループHDは22/3期～26/3期中期経営戦略「NEW HOPE」の重点施策として、「コンテンツ事業の売上を放送事業売上の50%程度に引き上げ、総合コンテンツ事業グループとなる」ことを掲げている。同社はNEW HOPEでコンテンツクリエイターとしての方向性を明確に示したが、以前から同戦略を実行し種を撒いている。下記はここ数年の放送・コンテンツ分野におけるM&Aや新会社、新事業設立の実績である。

コンテンツ分野における新規設立、M&A等によりグループ入りした企業

年	新規設立、M&A等によりグループ入りした企業	事業概要
2016	ABCアニメーション、ABCインターナショナル、ABCライツビジネス、ABCフロンティアホールディングス (2021にABCフロンティアを中心とした事業再編を実施)	アニメコンテンツの企画・制作、海外販売、物販、ライセンス事業、音楽出版事業、国際事業、事業開発
2019	マッシュ※	イベント企画・制作、プロモーション
2019	DLEグループ (DLE、ちゅらっぶず、AMIDAS.) ※	ファスト・エンターテインメント事業など
2020	プロセスタジオ※	ポスト・プロダクション、音響制作
2020	SILVER LINK.※	アニメーション作品の企画/製作・制作
2020	ABCアーク	出版/SNS/WEB等メディア運営 歴史を起点にした地域創生事業/企画/催物、マーケティング
2021	ベスティ	スポーツコンテンツの企画/制作/コンサルティング
2021	ABC & SET	演劇等の企画/製作/請負/興行 各種イベントの企画/制作
2022	ゼロジーアクト※	キャラクター、アニメ雑貨の企画・デザイン・製造・開発 玩具・ホビー商品の設計開発・OEM生産

出所：同社開示資料よりSIR作成 ※M&Aにより取得

朝日放送グループホールディングス：グループ会社一覧

※は連結子会社、線のつながりはその子会社を指す

放送・コンテンツ事業 ライフスタイル事業

- ※ **ABC テレビ**
朝日放送テレビ(株)
テレビ放送事業
- └ **A3C A3C**
※ (株)ABCアーク
出版/SNS/WEB等メディア運営
歴史を起点にした地域創生事業/企画/催物/
マーケティング
- ※ **ABC ラジオ**
朝日放送ラジオ(株)
ラジオ放送事業
- ※ **スカイA**
(株)スカイA
CS放送事業
- ※ **ABC LIBRA**
(株)エー・ビー・シーリブラ
主にTV番組企画/制作、映像の保存/管理
- ※ **ABC FRONTIER**
(株)ABCフロンティア
ライセンス事業、音楽出版事業、国際事業、事業開発
- └ **ABC SET**
ABC&SET(株)
演劇等の企画/制作/請負/興行、
各種イベントの企画/制作
- ※ **ABC animation**
(株)ABCアニメーション
アニメコンテンツの企画/製作、海外販売、物販など
- ※ **d.g.a.s.d**
(株)デジアサ
デジタルコンテンツ制作、字幕制作
- ※ **i-NEX+**
(株)アイネックス
総合技術プロダクション
- ※ **HASH**
(株)マッシュ
イベント企画/制作、プロモーション

- ※ **DLE**
(株)ディー・エル・イー
ファスト・エンタテインメント事業
- └ **ちゅらっぴす**
(株)ちゅらっぴす
ゲーム・アプリ企画/開発/運営
- └ **AMIDUS.**
AMIDUS.(株)
デザイン・プランディング・映像制作
レーベル・エージェンツ事業
- └ **CARAVAN**
(株)CARAVAN Japan
海外セレブリティの肖像権・商品化権ビジネス
アジア発の商材発掘・スタートアップ創出
- └ **PROCEN STUDIO**
※ プロセススタジオ(株)
ポスト・プロダクション、音響制作
- └ **SILVER LINK.**
※ (株)SILVER LINK.
アニメーション作品の企画/製作・制作
- └ **Bestie**
※ (株)ベスティ
スポーツコンテンツの企画/制作/コンサルティング
- └ **ZERO GACT**
※ ゼロジーアクト(株)
キャラクター、アニメ雑貨の企画・デザイン・製造・開発
玩具、ホビー商品の設計開発・OEM生産

- ※ **abcd**
ABC Development Corporation
エー・ビー・シー開発(株)
住宅展示場およびハウジング・デザイン・センターの
企画/運営、広告事業、不動産事業、保険事業、
WEBメディア事業
- └ **ハウジングサポート株式会社**
ハウジングサポート(株)
エー・ビー・シー開発が主催する住宅展示場等の
会場運営管理、労働者派遣事業、職業紹介事業
- ※ **ABC GOLF CLUB**
(株)ABCゴルフ倶楽部
ゴルフ場運営
- ※ **ABC FUN LIFE**
(株)ABCファンライフ
通信販売、代理店業務
- ※ **ONEDAY DESIGN**
(株)ONE DAY DESIGN
通信販売事業、地域創生事業、スタートアップ企業の
グロース支援、ブランドプロデュース事業
- ※ **ABC Glamp & Outdoors**
(株)ABC Glamp&Outdoors
グランピングを中核とした地域共創、
エリア開発プロデュース



その他の主なグループ会社

- ※ **ABC DREAM VENTURES**
ABCドリームベンチャーズ(株)
コーポレートベンチャーキャピタルの運営
- ※ **ABC HORIZON**
ABC HORIZON PTE. LTD. (本社:シンガポール)
日本企業・自治体の海外事業支援と、
東南アジアスタートアップの日本市場進出サポート
- ※ **ABC 興産**
(株)エー・ビー・シー興産
朝日放送テレビ本社屋等にかかわる施設警備・受付・
サポートカウンター業務など

出所：「コーポレートレポート2022」より抜粋
<https://corp.asahi.co.jp/ja/company/report.html>

LEGAL DISCLAIMER

ディスクレーマー／免責事項

本レポートは対象企業についての情報を提供することを目的としており投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載されたデータ・情報は弊社が信頼できると判断したのですが、その信憑性、正確性等について一切保証するものではありません。

本レポートは当該企業からの委託に基づきSESSAパートナーズが作成し、対価として報酬を得ています。SESSAパートナーズの役員・従業員は当該企業の発行する有価証券について売買等の取引を行っているか、または将来行う可能性があります。そのため当レポートに記載された予想や分析は客観性を伴わないことがあります。本レポートの使用に基づいた商取引からの損失についてSESSAパートナーズは一切の責任を負いません。当レポートの著作権はSESSAパートナーズに帰属します。当レポートを修正・加工したり複製物の配布・転送は著作権の侵害に該当し固く禁じられています。



SESSAパートナーズ株式会社

東京都港区麻布十番2-8-14 i-o Azabu 5a
info@sessapartners.co.jp